

老朽原発うごかすな！
とめよう！原発依存社会への暴走

関電前「一食断食」行動

10：00 開始、16：00 終了

突入集会 10:00～10:30

昼休集会 12:30～13:00

集約集会 15:30～16:00



集会の合間には、参加者のアピール、ライブ、楽器演奏、歌などをお願いします。

「一食断食」して、少しひもじい思いをしながら、原発利用の理不尽、エネルギー拡大の是非、福島原発事故の悲惨さ、原発事故被災者の苦難、子々孫々に負の遺産・使用済核燃料、核廃棄物を残すことの罪深さ、などなどに思いをいたし、「原発依存社会への暴走」に抗議し、原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会を展望しましょう。

今日・9月1日は、関東大震災から100年目です。「天災は忘れたころにやってくる」といいます。明日にも、原発立地を大地震が襲う可能性があります。一方、「人災は騙されたときにやってくる」は井戸謙一弁護士の名言です。今、政府や関西電力は、人々を騙して「原発依存社会」へ暴走しています。原発は人が動かしているのですから、過酷事故は人災です。老朽原発の運転は、過酷事故を招きかねません。一刻も早い原発全廃を実現しましょう。

- ・「放射能汚染水」をたれ流して、世界の海を汚染させるな！
- ・岸田政権の「原発依存社会への暴走」を阻止しよう！
- ・老朽原発の完全廃炉を突破口に、原発のない人の命と尊厳が大切にされる社会に向かって前進しよう！

昼食を我慢して、その一食分の浄財を、

「老朽原発うごかすな！」の活動資金として、カンパ下さるようお願いします。

トイレ情報

関電の西側、道路を挟んだ向かい側に黒い建物がたっています。これは「大阪中之島美術館」で、1階にトイレがあります。建物東側（関電に面した側）の玄関に入ってすぐです。

主催：老朽原発うごかすな！実行委員会

●全国からのメッセージ

【北海道】

北の地から熱き連帯の意を表します！

北海道 後志（しりべし）・原発とエネルギーを考える会／佐藤 英行

北海道寿都町、神恵内村にかけられている高レベル放射性廃棄物最終処分場建設攻撃は全国に最終処分場に向けた自治体攻撃の水先案内的役割を負っている。文献調査を受ければ 20 億円の交付金が交付される。建設しなくとも調査だけでも対象になり、寿都町、神恵内村を見なさい、とばかりに金を人参として地方自治体の自治を破壊し、人々を分断し進められている。

強引なまでの岸田自民党政権による核政策のごり押し。老朽原発をはじめトラブル、不

祥事、もろもろの違反が頻発しているにもかかわらず、原発の再稼働を進めている。高レベル放射性廃棄物処理場建設、中間貯蔵施設等々を、核燃料サイクルは破綻しているのに、財政が厳しく、人口減少が著しい弱い地方自治体に餌に金をちらつかせ押し付けてくる。そのことに満腔の怒りを覚える。

核社会へ突き進むための原発依存社会の暴走は何としても止めなければならない。

北の地から、「老朽原発動かすな！実行委員会」の闘いに熱き連帯の意を表します。

【青森県】

メッセージ

核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会 事務局長／中道 雅史

8 月初め、中国電力は山口県上関町に、使用済み核燃料中間貯蔵施設の建設を検討していることを表明した。もちろんそうさせてはならないが、これがもし実現すれば、国内二つ目の中間貯蔵施設になる。

一つ目は、青森県むつ市にある。この施設の建屋はすでに完成し、今月中にも「保安規定」が認可され原子力規制委員会の審査が終了する。ただし、操業開始はまだ見通せない。なぜならば、諸手続きのあと、実際の使用済み核燃料を入れたキャスク 1 基を用いた最終検査があるからだ。しかし、搬出元の東京電力柏崎刈羽原発は不祥事が相次ぎ、核燃料の移動が禁じられているのだ。

東電が 80 %、日本原子力発電が 20 % 出資しているこの施設は、両電力からの使用済み核燃料しか搬入貯蔵できない。しかし、若狭の原発の使用済み核燃料の搬出先に困った関西電力が、やはり全国の原発からの搬入を意図した電事連と結託して、むつ市にあるこの施設の共同利用を画策した。この共用案は地元で反発され進まなかった。追い詰められた関電が、噴飯もののフランスへの移送という奇策の次に、原発 1 基しか持たない中国電を

巻き込んだということが上関で起こっていることの構図。原発から使用済み核燃料を搬出しないと再稼働もままならないのは、いずれも同じだ。

そもそも、中間貯蔵施設は使用済み核燃料の再処理が大前提なのだ。青森県六ヶ所村の再処理工場の操業見通しはたたない。六ヶ所にこれ以上核燃料を搬入できるスペースもない。だから中間貯蔵だ。だが、一時貯蔵の期限が 50 年とされる中間貯蔵施設は、現在の再処理工場の操業がうまくいったとしても工場は 40 年使用が限度なので、その貯蔵される核燃料の行先は第 2 再処理工場となる。今現在、「第 2」の計画は消えてなくなっている。お先真っ暗だが、問題先送りのその場しのぎ。

おまけに電力にとって、使用済み核燃料は再利用するための資産である。ちなみに、むつ市にある先述の施設、事実上の東電子会社の名称は「リサイクル燃料貯蔵」。

いつまで、だまし続けるのか。だが、使用済み核燃料問題は、原子力マフィアにとって、私たちが攻め続けるべき、最大の弱点でもあるのだ。

「一斉一食断食行動」への連帯アピール ～女川原発再稼働に反対する意見広告＝紙面デモにご協力を！～

みやぎ脱原発・風の会／舘脇 章宏

2024年2月に女川原発2号機が再稼働されようとしているが、女川原発2号機は福島原発同様BWRマーク1の古い型であるだけでなく、東日本大震災の震源地に最も近く、13メートルの津波が襲った「被災原発」だ。女川原発ではこれまで基準地震動を3度も超えるなど何度も大きな地震に見舞われてきた。最近でも、女川1号機の原子炉建屋天井クレーンの台座のひび割れは、同年3月の地震によるものだとしている。

さらに問題になっているのが圧力抑制室の耐震工事で、これは東北電力自らが「過去に例のない」という大工事だ。つまり、女川原発は地震そして津波への対策に追われ続けるしかない。実際、女川原発の安全対策工事費は5700億円、さらに「特重施設」は1400億円と、再稼働工程全体でなんと約7100億円もかかる。

一方、5月24日の女川原発再稼働差止裁判で、仙台地裁は住民側の訴えを退けた。しかしこの判決は避難計画の実効性の有無には触れず、原発で過酷事故が起こる危険性の立証

を住民側に求めるという、なんのために避難計画があるのかが分っていないような判決であり、多くの市民が怒り心頭だった。原告は直ちに控訴し、10月2日に第一回控訴審が予定されている。

このような状況のなか、来年2月の再稼働にあくまで反対なのだという世論を可視化するため、私たちは地元「河北新報」に意見広告を出すこと（＝紙面デモ）を計画した。8月11日には小出裕章さんをお呼びして「スパート集会」を行い、Zoomあわせて約230人が参加し思いを新たにしました。

ぜひ全国の多くの仲間がぜひこの「紙面デモ」に参加され、ともに反対の声をあげて頂くことを心よりお願いします。（可能であれば、クラウドファンディングで入金頂くと助かります）。詳しくは下記をご覧ください。

・ウェブサイト

<https://stop-onagawa-nuke.jp/>

・クラウドファンディング

<https://readyfor.jp/projects/stop-onagawa-nuke>

ふくしまから、一食断食行動に連帯して

原発いらね！ふくしまの女と仲間たち／黒田 節子

「汚染水を海に流すな！」と、韓国のイ・ウオンヨンさんがソウルから1600km以上ずっと、酷暑の今日もまた歩いて訴えておられます。「汚染水を捨てててならないことは、あなた方日本国民が直接に意思決定しなければなりません」「自国の政府が誤ったことをしているとき、それを正すのが皆さんの大切な仕事です」…本来、行進は私たちがやらなければならない抗議であり、とても耳が痛い言葉です。でも、京都の人たちがたくさん一緒に歩いてくださって本当に良かった。感動

しました。ありがとうございました。

（このアクションに触発されて、福島からはキャラバンを計画しています。9.11東京で合流しましょう！）

チェルノブイリ事故後、その「記念日」に、やはり一食断食を全国の知人友人に呼び掛け、「基金」にカンパを送ることを何年間かやっていました。いつでも、だれでも、どこでもやれる断食。食べること／食べられないことを通して、自分事として原発のことを考えてみるよい機会でしたが、その後、足元で

実際に起きてしまった F1 事故。事故の隠ぺいと過小評価は、最初から徹底されてきました。そして 12 年。今日的には、汚染水海洋放出が最大の問題の一つです。国内世論や海外の反応、漁業者との約束も無視。急いで放出する必要はまったくないにもかかわらず、日本の原子力政策の根本に関わることだからこそ、なりふり構わず何が何でも放出しようとしています。

先日は、郡山市の安積高校に「汚染水は大

丈夫」という内容のワークショップをして、資源エネルギー庁の参事官が生徒に大ウソを吹き込んでいる。

‘復興’路線に乗った事例は限りなくありますが、放射能に最も影響がある若い人の生命を踏み台にしての安全安心キャンペーンには、心底怒りを感じます。

あきらめずに声を上げていきましょう！
どうか、共に在ってください。

【茨城県】

東海第二原発反対の現地から

茨城県東海村議会議員／阿部 功志

■世界中で異常気象による干ばつ、洪水、山林火災などの災害が頻発しています。温暖化が原因と言われ、人類の終わりの始まりを予感せずにはいられません。12 年も経つと福島原発事故の悲劇など忘れられていくのか、こういうニュースが刺激となって、政府による「原発が動かないとたいへんだキャンペーン」はどうやら成功し、再稼働した方がいいと考える国民が増えているような感触です。私たちの行動でなんとか方向を変えなければなりません。差止裁判は東京高裁に場を移し、いよいよこれからです。

■首都圏にある東海第二原発はこの秋で稼働から 45 年目、日本原電の進める工事の防潮壁は「進撃の巨人」の高い壁さながらで見る人を威圧し、これなら動かしても安心だと思わせるに十分でしょう。しかし原電はまだ正式に動かすとは言わず、30 キロ圏 14 市町村の東海第二発電所安全対策首長会議は様子見です。

■東海村議会は、東海第二原発の再稼働賛否の請願、各 2 件の審査が大詰めです。推進側が数の力で「早く再稼働を」の請願を通せば、地元の議会が再稼働を認めた、と大きな影響が出ることを恐れます。

■東海第二の広域避難計画は避難場所と移動手段が確保できず、破綻しています。しかし茨城県は、避難もとの 14 市町村に一人当たり 3 m²以上を目安として避難所を確保するよう伝えました。当初の 2 m²を 3 m²に変えるのですから、当然 1.5 倍の面積確保が必要になり、行き詰まっています。どだい無理なのです。各自治体は実効性ある計画など策定できないとわかっていますが、政府などからの圧力にどこまで抵抗できるでしょう。

■私たちは 8 月 26 日水戸で「STOP!! 東海第二原発の再稼働いばらき大集会」を盛大に開きました。課題は多く、前途多難ですが、皆さん、気を引き締めて連帯していきましょう。

【東京都】

東京に一番近い原発（＝東海第二原発）の再稼働阻止をめざす
茨城へ大型バス、第九波の一斉行動、3回の学習会、11.18大集会

たんぼぼ舎／柳田 真

◎日本原電は 2024 年 9 月に東海第二原発(110 万 kW) の再稼働を発表しています。東京に

一番近い原発＝関東で唯一の原発の再稼働反対。東京圏は過去 12 年原発電気はゼロだっ

た。原発はいらぬ（電気は足りている）を合言葉に、12年前の東電福島第一原発大惨事をくり返さないを胸に全力投入中です。

茨城の運動に連帯して8月26日（土）大型バス（49人乗）と乗用車数台、電車等で80人程が、東海村一水戸大集会（800人）へ行きます（バスツアーの主催は「とめよう！東海第二原発首都圏連絡会」）。

◎9月1日（金）～11（月）の11日間は東海第二原発いらぬ首都圏中心の第九波一斉行動です。2021年9月に第一波を実施、3ヶ月ごとで今年9月に第九波（1日～11日）をやりまします。首都圏の駅を中心に50～70グループが、とりくんでいます。（総参加600人～800人）

◎「核汚染水の海洋投棄反対」「安全な陸上部で保管せよ」の活動も大事です。たんぼぼ舎、とめよう東海第二原発首都圏連絡会の旗をもって参加しています。

【東京都】

関電前「一食断食」行動へのメッセージ 「反社会的」組織関西電力による老朽原発再稼働ラッシュを糾弾する！

再稼働阻止全国ネットワーク／木村 雅英

9 / 1 関電前「一食断食」行動にお集まりのみなさま

本日は、現地に行けずに大変申し訳ありません。

関電が美浜3号のみならず高浜1号をうごかし更に高浜2号をうごかそうしてる信じられませぬ。7基の原発稼働は、福井県と近隣府県の住民を危険にさらすばかりか、若狭の海のみならず近畿の水がめ琵琶湖の放射能汚染が心配です。

関西電力は全く信用できない「反社会的」組織です。そのことを古賀茂明さんのお話から振り返ってみました。

- 1 歴代経営幹部金品受領事件（2019年9月）
- 2 顧客情報の盗み見事件（2021年12月）
- 3 カルテル主導事件（2022年～23年）
- 4 核のごみ処理やるやる詐欺5回（1998年

以上の活動の中で、学習会も重視、今後もおこないます。

それらの集大成で11月18日（土）大集会（800人）と古本屋街として有名な神田神保町を原発いらぬのデモを初めて実施します。

以上の諸行動に心ある皆さんの協力、参加をおねがいします。

【11.18大集会にむけてプレ学習会】

- ・第1回 7月29日（土）山崎久隆、鴨下美和さん（実施済み）
- ・第2回 9月16日（土）2:00～5:00
会場：たんぼぼ舎集会室…上岡直見－「東海第二原発が事故ると600兆円の大損害」
- ・第3回 10月1日（日）13:30～16:00
会場：「文京シビックセンター」3F会議室…樋口英明－「原発は地震が起きても大丈夫という人々」

～2023年）

- 5 中国電力を操って上関町中間貯蔵施設建設企み（2023年）

これらが関電が稀に見る悪質企業であることことを示しています。企業トップが犯罪を主導、発覚すると表向きは謝罪するが、裏では損失補填など腹の中では全く反省していない、自己が利益を得るためなら他人を裏切ることなど何とも思わない不誠実さ、などです。

こんな企業が原発という危険なものを動かして良いのでしょうか。関西電力の「反社会性」を思い起せば、7基の原発の危険性が一層心配です。

何としても、事故を起こす前に、行き場の無い使用済み核燃料を増やす原発稼働を止めるべきです。

一食断食に参加させてもらいます。共に頑張りましょう。

【新潟県】

メッセージ 9月1日行動の成功を期待します！

柏崎刈羽原発絶対反対地元有志代表／近藤 容人、高田 勝弘

東京電力は柏崎・刈羽原発 7 号機の再稼働に向けて様々な工事を行ってきている。

ところが、工事を進めれば進めるほど、東電の協力企業の多さの矛盾、東京電力の地元住民無視、利益優先の体質が露呈している。

最近の東京電力は、2020 年 12 月には他人の ID カードを使用しての核防御地域への侵入、2022 年 12 月、作業員が特定の工具を必要書類未提出のまま持込、2023 年 1 月、7 号機で配管腐食が発覚、3 号機の規制委員会提出書類に 2 号機のを流用、2023 年 5 月、上司の許可を受けず 80 枚もの 6 号機の書類をコピーして自宅に持ち帰る際に紛失（これに対して東京電力は、「核物質を取扱う区域のものでないので、再稼働には支障がない」と開き直っている）など、一般企業の常識では考えられない不祥事件を起こしている。

これら不祥事に対して再稼働容認の櫻井市長でさえ「東京電力に原発の運転資格はあるのか、自問している」と定期記者会見で発言している。

一方、新潟県は検証委員会総括委員長である池内了氏を 4 月に解任した。理由は「福島事故の検証だけをすればよい、タウンミーティングなどを実施しようとする報告書は認められない。」である。

これに対して、私たちは、解任理由を求め、検証委員会の再開を求める要求書を県知事に提出してきた。

池内了氏は県内各地でタウンミーティングを行っている。

8 月 12 日には、原発地元の柏崎市宮川で福島、チェルノブイリの現状写真展とともに、タウンミーティングが行われています。

「電力不足を理由とした、原発の再稼働は認めない。送電喪失電力は 15 % である。こんな無駄な金のかかる原発は廃炉しろ。」こんな気持ちをもって現地で頑張っています。

本日の行動に参加されたみなさんに敬意を表するとともに、行動が成功することを期待いたします。

【愛知県】

「一食断食」行動に連帯します

老朽原発40年廃炉訴訟市民の会／草地 妙子

いつも、関西電力前や、高浜、美浜での現地集会、デモなどを企画・運営くださり、ありがとうございます。

「一食断食」行動に連帯して、メッセージをお送りいたします。

私たちは、名古屋地裁で関西電力の高浜原発 1, 2 号機と美浜原発 3 号機の運転期間延長認可等の取り消し訴訟をしています。事故が起これば風下地域として被害を受ける地元であるという意識で取り組んでいます。名古屋の住民の中に、福井の原発は「他県の問題」という意識がぬぐえないのも、残念ながらあると思います。

どこかで、私たちは安全なところにいると思いついて、傍観者になってしまうのが消費地の傲慢であり、浅薄さだと思います。たった一度の食事の分で、何かをした気持ちになってはいけません。いつでも、どこでも、ひとりでも」取り組める実践として広めていくことは、原発を我が事として考えるために必要な事だと思われました。

老朽原発が全国で当たり前のように動いているような現実を来させないためにも、今、止めなければなりません。各地の連帯した行動が求められていると思います。

私たちも名古屋の地で、声をあげていきま

す。原発を維持するシステムの醜悪さ、本質的な危険性に、都会の住人こそ目を向ける必

要があることを訴えて、社会から原発を無くしていく闘いを続けていくことを誓います。

【岐阜県】

老朽原発うごかすな 関電前「一食断食」行動への 連帯メッセージ

さよなら原発・ぎふ

8月24日、政府・東電は福島第1原発事故によって発生している放射能汚染水の海洋投棄を開始しました。最初から「海洋投棄ありき」、他の方法を検討することはありませんでした。「関係者のご理解を得て」という言葉は、完全に反故にされました。

8月18日～20日、私たちは、汚染水の海洋放出の中止を求めて韓国から徒步行進を続けている李元栄（イ・ウォニョン）さんに連帯して、ささやかながら声を上げました。

福島原発事故をまるで「なかったこと」にするかのような原発依存社会への回帰の動きの下で、「国内最古」となる高浜1号機が再稼働され、間もなく高浜2号機も再稼働するとしています。許せません。

福井方面から岐阜県方向へはほぼ年間を通じて北西の風が吹いています。福井の老朽原発に「何か」があれば、岐阜県民は大きな被害を受けることとなります。このことは、2012

年3月の美浜原発前の水晶浜からの私たちの「風船飛ばし実験」の結果でも、同年9月に岐阜県が公表した「放射性物質拡散シミュレーション」でも明らかです。

しかし、原発の立地自治体でもなく、関西電力の電力供給地域でもない岐阜県では、老朽原発再稼働についての報道はほとんどありません。被害者になるかもしれない岐阜県の住民は何も知らされないまま、「関係者」から除外されてしまっています。

8月28日、老朽原発再稼働について、道行く方々に考えて頂きたいと街頭シール投票を企画しました。

また、9月10日には「さよなら原発パレード in ぎふ」48回目として「48年 国内最古老朽原発 今すぐ止めろ！」を行います。

「老朽原発うごかすな」の声を、岐阜でも拡げるために努力していきます。

【石川県】

関電前「一食断食」行動への連帯メッセージ

志賀原発を廃炉に！訴訟原告団 団長／北野 進

全国各地から老朽原発の廃炉実現を目指し関電本店前にお集まりの皆さまへ連帯のメッセージを送らせていただきます。

岸田政権は、福島原発事故以降、曲がりなりにも掲げられてきた「原発依存度低減」の方針を覆し、60年超運転や新增設など孫子の代まで原発に依存し続ける社会へと舵を切りました。

私たちが運転差止めを求める志賀原発は、1号機が1993年、2号機が2006年営業運転開始と国内の原発の中では後発組であり、一見、

60年超運転とは最も縁遠い原発に見えます。現在、2号機は適合性審査の途上、1号機は申請にすら至っていません。

こうした中、今年の北陸電力の株主総会では、廃止措置推進本部設置という脱原発の株主提案に対して取締役会は「再稼働を目指す方針であり反対」と一蹴。「老朽原発うごかすな！」のたたかいを意識するかのよう「志賀原発は若い原発。廃止はいずれ訪れるが、対応する準備期間は十分ある」としました。2号機の適合性審査はすでに9年が経過、この

期間を運転期間から除けば実質 70 年運転も見えてきたと北陸電力は陰で高笑いをしていることでしょう。福島事故の時点で設備利用率 50 %と全国最低で、経営への貢献度が低かった志賀 2 号機ですから、60 年超の長期運転に対する経営陣の期待は大きなものがあります。

今年 3 月 3 日の規制委・審査会合で敷地内断層の活動性否定を了承された北電は、2026 年 1 月の再稼働に向けて、審査会合への対応を加速させています。もちろん私たちは規制

委の結論を決して容認はしません。今後の口頭弁論で規制委の評価に対する反論を展開すると同時に、避難計画の不備等その他の論点も次々と主張していく予定にしています。

関西の皆さんの力強く、創意工夫に満ちたたたかいは、原発の廃炉を目指す私たちにたくさんパワーと刺激を与えてくれていますが、今回の「一食断食」行動にも大いに学ばれます。大成功を祈念します。共に頑張りましょう！

【石川県】

老朽原発再稼働阻止に声を上げ続ける皆さんに、
能登の原発の廃炉を求める者として、
心よりの敬意と微力ながらの連帯のメッセージを送ります。

志賀原発再稼働阻止を闘う「命のネットワーク」／藤岡 彰浩

この間、関西電力と岸田政権は何が何でも若狭の老朽原発を一基でも多く再稼働させようと、なりふり構わぬ姿勢を見せてきています。

中でも、上ヶ関原発予定地への中間貯蔵施設導入の動きは、関電の原発再稼働が目的であることが見え見えであるにも関わらず、祝島をはじめ現地の人々にさらなる混乱と分断をもたらすあざといやり口で、強い憤りを覚えます。

そのやり口は、私たちに珠洲原発のことを思い起させます。この珠洲の計画の一方の主役も関西電力でした。なぜ関電が能登半島の突端に原発を必要としたのか。珠洲の人々を中心とする粘り強い運動の成果で計画は撤回されましたが、疑問が解消したわけではありません。当時、噂になっていたのが、中間貯蔵施設というまだあまり耳にしたことのない言葉をめぐるものでした。怪しげな買収工作が海岸部だけでなく高台の広い農地に及んで

いたのです。珠洲は、若狭と青森との間にあり、中間施設を置くには格好の地といえます。珠洲原発の挫折とともに、中間貯蔵地のうわさも小さくなっていきましたが、まだ疑念が完全になくなったわけではありません。当時買収された土地の一部が、ほとんど誰も訪れないのに、ハーブを中心とした植物園という名目で登記されたままになっています。

この上ヶ関の問題以来、私たちは珠洲にもう一度目を向けなおそうとしています。いつどこから策謀の手が伸びてきても不思議はないからです。

そしてこのことは、改めてそれぞれの地での情報の交換と、連携・連帯の大切さを教え促していると思います。廃炉に踏み切れない北陸電力の尻を蹴飛ばし続けるためにも、関電の老朽原発即時廃炉を掲げて戦う皆さんと声を上げ続けていきたいと思っています。ともに頑張りましょう。

2023.9.1 関電前・一食断食行動へのメッセージ 使用済み核燃料は「資源」でない、「ゴミ」だ！ 原発の電気が必要なら、ゴミも引き受ける！

ふるさとを守る高浜・おおいの会／東山 幸弘

8月2日、中国電力は関電と共同して、山口県上関原発予定地に「中間貯蔵」施設をつくるためのボーリング調査をしたいと上関町に申し入れた、と発表。この事について私は毎日新聞の取材で「びっくりした。てっきり関電の管内で立地を探すと思っていた。現地の人々にすれば、『よそのごみを持ってくるのか』となる」と発言し、報道してくれた。

原発で発電すれば、ウラン235が核分裂し、電気と共にその放射性生成物ができる。そしてウラン238は自然界にないプルトニウム239を生み出す。国はエネルギー資源のない日本は使用済み核燃料を再処理して、プルトニウムで発電する。その為、使用済み核燃料は有用な「資源」であり、「ゴミ」ではない、と。しかし、青森県六ヶ所村の再処理工場に関わる費用は私たちからの電気代に含まれ、徴収されているがこの工場は25年以上も経っても完成しない。完成の見込みもない。核燃再処理サイクルは破綻している。もはや使

用済み核燃料は「ゴミ」でしかない。

自分の出したゴミは自分で処理する。関電が原発で発電して出来た使用済み核燃料ゴミはその電気を供用してきた配電下で処理することは当然である。原発の電気が必要だとする人は、その人たちがゴミをも引き受けるべきである。六ヶ所再処理工場へ持っていけばなんとかなるは幻想である。「中間貯蔵」という名で子々孫々に押し付ける核のゴミ捨て場ではない。

関電・若狭の原発三箇所の構内には8,192体の使用済み核燃料がプールに保管されている。保管管理容量の82%が埋まり、後5、6年で満杯になる。もう原発が運転できなくなる。

京都府民も兵庫県民も大阪府民も和歌山県民も奈良県民も滋賀県民もみんな「中間貯蔵施設」を拒否している。原発の電気は要らないということである。

メッセージ

おおい町／宮崎 慈空

福I原発震災から12年半、当時のことを思い出す。

I～III号機が水素爆発して翌日には燃料溶解が始まっていた。しかし東電や原子力安全保安院が、燃料溶解を認めたのはそれから一か月も経った後のことだった。その間近隣住民や原発労働者は不要な被ばくを強いられた。これで知ったことは、原発事業者は事故の重大さを常に小さく見せようとする習性を持っているということ。能力も資格もない人たちが、原発という危険で不可逆的被害を及ぼす装置を動かしているということだ。ちな

みに稼働40年に満たない高浜3・4号機では、数年前蒸気発生器の細管に想定外の損傷が複数見つかったが、徹底的な原因究明もなしに今でも動かしている。特に老朽原発には地元でも不安の声が多い。

政府は「福島復興なくして日本の復興なし」と空文句を繰り返し、していることと言えば、子供たちも含めて住民を年間20ミリシーベルトという超法規的な環境に連れ戻し、また、被ばく不安で戻らない住民には住居保証を中止するという脅しをかけている。日本の国や政府というものは一般国民に対し

ては冷酷だ。

8月24日に国内外の反対を押し切って、福島Iサイトの汚染水の海洋放出が始まった。第三者IAEAのお墨付きを得て、安全性が保証されたとのことだが、まずIAEAは原発推進機関であり、第三者ではない。さらに、日本の放射性トリチウムの放出基準は科学的に動物実験等で証明されたものではなく、福島原発での通年放出量をもとに換算して原発推進のために短絡的に6万Bq/lという大変な基

準に決めたものだ。これを「安全基準」と呼び、「科学的」と言って欺くのは、国民を簡単に洗脳する有効な手段と心得ているからである。「風評被害」も「実害」を隠して偽った表現だ。ちなみにカナダの原子炉では、地域住民に健康被害が出て、調査の結果トリチウム由来とわかり、飲料水規制値も20Bq/lという超低基準に定めている。福島現状は明日の若狭だと危惧される。

【福井県】

できることを、できる場で

若狭町／石地 優

8月24日、東京電力は福島第一原発事故で発生した汚染水を海洋放出した。福島漁連との「関係者の理解なしに、いかなる処分もしない」という約束を破って。

関西電力は、1997年から26年もの間福井県との「中間貯蔵施設の県外での確定」の約束を何度も破ってきた。

国や東京電力は、汚染水の対処法は海洋放出しかないと主張し実施しようとしている。資源エネルギー庁の小委員会が2020年2月、報告書を公表。その結論は、「水蒸気放出及び海洋放出が現実的な選択肢」だった。にも拘らず2021年4月、当時の菅首相は2年後をめどに海洋放出を開始すると発表した。いつの間にか海洋放出のみが汚染水対策になってしまった。最初から海洋放出しかないと決め打ちしていたやり方は私たちを愚弄するものです。

関西電力は福井県との使用済燃料に対する約束に対し、たった5～6%の量の仏への搬送で「県との約束は果たされた」と詭弁を弄しごまかしています。

国や電力会社が約束を破りごまかす姿勢、その姿勢を無批判に垂れ流すマスコミ、それ

を真に受ける国民、一体いつからこんな風になってしまったんでしょう。

8月2日、中国電力は、山口県上関町に中間貯蔵施設の建設のための調査を、したいと上関町に伝えた。そしてその計画に関西電力が共同で行うことになっている。この問題は地域間と世代間の公平性、公正性にあります。福井にある原発で産み出された使用済燃料を同じ原発立地の候補地である、つまり福井と同じ立場にある上関町に搬出することになれば、地域間の公平性、公正性にもとります。

この状況は、人の命、生きとし生けるものの命よりもお金がすべてという考えが席卷し、そのためなら約束を破っても、嘘をついても、ごまかしてもいいという雰囲気蔓延していることにあります。

今、私たちがなすべきことは、「もうこれ以上の放射性廃棄物を増やさないこと」です。そのためには原発を止めなければなりません。それぞれがその思いを発信し、行動することが大切です。一人ひとりができることをできる場で知恵を絞ってやっていきましょう。

『9.1 老朽原発うごかすな！ とめよう！原発依存社会への暴走
関電前「一食（いちじき）断食」行動』に連帯して、
メッセージを送ります！

滋賀県高島市会議員／是永 宙

岸田政権は GX 原発関連法を強引に成立させるなど、日本を原発依存社会に引き戻そうと躍起になっています。また福島第一原発の汚染水については「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」という"約束"を反故にして、地元の漁業者や市民の猛反発にも関わらず、海洋放出を開始するという暴挙に出ています。

これらのことは、2011 年の福島第一原発の教訓から目をそむけ、今なお故郷を奪われている人の心を踏みにじるものです。

一方、関西電力は運転開始後 46 年を超えた老朽原発・美浜 3 号機を稼働させ、今年 7 月には高浜 1 号機を、さらには高浜 2 号機を 9

月中旬に再稼働させると発表しています。

原発は運転すれば何十万年にもわたって管理を続けなければならない核のゴミを作り出します。また、一步間違えれば、故郷の山や川を奪ってしまうリスクも孕んでいます。とりわけ、巨大地震が頻発に発生する日本においては、過酷事故の発生リスクは大きく、老朽原発ではリスクの大きさもさらに跳ね上がります。

このように、原発は私たち人間の営みと相入れるものではありません。子どもたちが安心して暮らせる未来のために、原発依存を強めていく国の方針を転換させるまで、皆さんとともにがんばります！

「一食断食」行動へのメッセージ

福知山地方労働組合協議会 議長／奥井 正美

9.1 老朽原発うごかすな！ とめよう！原発依存社会への暴走 関電前「一食（いちじき）断食」行動参加者のみなさんご苦労様です。

京都・福知山原発再稼働反対金曜日宣伝隊からの連帯メッセージを送ります。

2012 年 7 月から毎週金曜日宣伝を継続しています。（水害・大雨、大雪警報・お盆・年末年始を除いて行動）参加者は限定されてきていますが、中学生・高校生からの激励の手振りとともに激励の声が掛かって来るようになりました。「継続は力なり」を実感しています。

関電が老朽原発高浜 1・2 号機を動かすことを批判する。又、中間貯蔵施設建設にとも

なって動きを市民の皆さんに訴えています。

老朽原発再稼働を受けて、4 年ぶりに「原発再稼働反対京都舞鶴集会」に参加しました。全体 250 名の参加者でした。今後も北部（京丹後市・宮津市・舞鶴市・綾部市・福知山市）の原発ゼロ団体と協力共同して北部集会を行います。

9・1 は毎週行っている福知山駅南口交差点において連帯の気持ちを持って、各労組・団体・個人に呼び掛け、参加者の規模を広げ 17：30～18：00 まで宣伝行動を行います。

今後とも、原発廃炉に向けて全国の仲間と連帯しながら、キンカン行動を継続していきます。共に奮闘しましょう。

9. 1 「一斉一食断食行動」へのメッセージ

原発ゼロをめざす宮津・与謝ネットワーク 代表/津島 英一

貴会の日頃のご活動に対して深く敬意を表します。

われわれ「原発ゼロをめざす宮津・与謝ネットワーク」（原発ゼロ宮津・与謝ネット）は、最近の原発回帰の動き、宮津市における中間貯蔵施設の動きなどに危機感を持ち、組織を立ち上げ、学習会、講演会の開催、「3. 11 企画展」の開催など取り組んできました。

さて岸田政権は、GX 推進法という名の原発回帰法を成立させ、原発推進へと大きく舵を切りました。運転期間の規定を「原子炉等規制法」から「電気事業法」に移管（経済産業大臣の認可）、運転期間 30 年を超える原発は 10 年以内ごとに審査し認可、60 年を超える期間運転延長を可能にする、原発活用による電力供給を「国の責務」として、原子力産業を将来にわたり支援するなど、とんでもない内容です。

いのちと暮らしを守るため、 原発依存社会への暴走を止めましょう！

さよなら島根原発ネットワーク/芦原 康江

9.1 老朽原発うごかすな！ とめよう！ 原発依存社会への暴走 関電前「一食（いちじき）断食」行動にご参加の皆様、島根から共に原発を止めるために連帯のメッセージを送ります。

日本の原子力政策は行き詰まりが見え始める中、実態をごまかすように政治が前面に立った推進政策が強引に進められています。私たちの町の島根原発 2 号機は、工事計画認可審査が長引き、安全対策工事の完了も 2024 年 5 月末にずれ込むことになりました。その 2 号機が稼働すれば、プルサーマルが実施され、使用済み MOX 燃料は燃料プールで塩漬け状態となる見込みです。また、60 年超の長期運転が行われれば、その使用済み核燃料もやが

今回政府は、「関係者の理解なしに処理水のいかなる処分も行わない」との福島地元漁協との約束を踏みにじり、原発汚染水を海洋放出するという暴挙に出ました。しかし、その場しのぎで対策を決めても、積み上がる核廃棄物の処分地、処分方法も決まらず、再処理施設の完成も見通しが立たず、完全に行き詰まっています。政府がいかに原発回帰に躍起になろうとも、もはや原発は完全に「オワコン」であることは明らかです。

原発ゼロ宮津・与謝ネットは、原発銀座である若狭地方に隣接する地域として、これまで以上に情勢に目を配りつつ、共同・共闘する団体と連携を深め、運動を展開していくこととしています。貴会ともお互いに運動を推進し、原発廃止という目標に向けて奮闘する決意です。ともに頑張りましょう！

て搬出不可能となる時期がやってくるでしょう。

この間、中国電力が矢継ぎ早に公表したことは、山口県上関の原発建設敷地内に「使用済み核燃料中間貯蔵施設」を関西電力と共同で建設するための調査申し入れと、島根原発 1 号機廃炉過程における使用済み核燃料搬出時期の 6 年延期です。「中間貯蔵施設」は当面、関西電力への助け舟と原発建設が進まない上関町への配慮ではありますが、中国電力にとっても、島根原発 2 号機の長期運転を行えば、やがて必要とされる施設です。どちらも青森の再処理工場の稼働時期が見通せないことが要因ですが、関西の老朽原発の稼働も島根原発の長期稼働も保証することになり、絶対に

容認することはできません。

これらの原発は「地震大国」と言われる大地に建ち、いくつもの火山を抱え、いつ発生するかわからない巨大な災害のリスクを抱えているのです。山口県上関町も南海トラフの地震による巨大津波のリスクが高い地域です。これらの施設の危険性は、常に住民にの

しかかってくるのです。

私たちは、命と暮らしを守るために、あらゆる手立てで島根原発の再稼働を止め、中間貯蔵施設を絶対に作らせないよう強く訴えていきます。皆様、共に原発依存社会への暴走を止めましょう！

【山口県】

9.1 老朽原発うごかすな！ とめよう！原発依存社会への暴走 関電前「一食断食」行動へのメッセージ

上関の自然を守る会 共同代表／高島 美登里

「9.1 老朽原発うごかすな！ とめよう！ 原発依存社会への暴走関電前「一食（いちじき）断食」に参加された皆さんに心より連帯の拍手を送ります！！

さて去る 8 月 2 日、西哲夫上関町長は「新たな地域振興策」として中電から「中間貯蔵施設誘致」提案を受けたことを明らかにしました。住民にとっては「寝耳に水」の降って沸いた話です。そしてわずか 16 日間で多くの町民の反対や疑義の声を押し切り、臨時議会で採決も取らず、町長の一存で誘致のための調査受け入れを表明しました。異様とも取れるこの事件の裏には関電の存在があります。中国電力との共同開発とは名ばかりで実は使用済み核燃料の福井県外搬出に行き詰まった関電の思惑であることは火を見るより明らかです！

私たちは 1982 年の原発計画浮上以来 41 年間、町を二分する対立の中で反対運動を闘ってきました。フクシマ第一原発事故による工事中断を受けてようやく推進反対の壁を乗り

越え「原発財源に依存しない町作り」を志向する動きが生まれていた矢先の出来事です。西町長の「地域振興策」は新たな「地域分断策」でしかなく断じて許せるものではありません！

ましてや「奇跡の海」と呼ばれる世界的に貴重な生態系と自然環境、それに依拠する漁業などへのリスクも看過できません。私たちは「奇跡の海を壊すな！」「上関を関電のゴミ捨て場にするな！」「瀬戸内海を『死の海』にするな！」「原発再稼働とりわけ老朽原発の即時停止をしろ！」と全国の仲間と共に声を大にして訴えます！！

闘いはまだ、始まったばかりです。上関にしかない貴重な自然を活かし漁業振興やエコツーリズムの構築など「核財源に頼らない地域振興」を目に見える形で実現し、上関町民自らが「自然を活かした町作りを！核施設 NO!」という選択ができるようなやかにしたたかに粘り強く闘い続けます。共に頑張りましょう！

【愛媛県】

愛媛県伊方より連帯メッセージを送ります！

伊方から原発をなくす会／秦 左子

「老朽原発うごかすな！ とめよう！ 原発依存社会への暴走 関電前 「一食断食」行動」参加者のみなさん、そして全国で連帯行動をされているみなさんに敬意を表し、愛媛県伊

方より連帯メッセージを送ります。

伊方原発は、南海トラフ巨大地震の震源域内で、前面には中央構造線の活断層があるというトンデモナイ場所にあり、私たちは、揺

れを感じるたびに言葉にならない恐怖に曝されながら、「まだ伊方を止めていない」と自己嫌悪に陥る日常を送っています。

先日は、四国電力が愛媛県に 5000 万円寄付しました。長井啓介四国電力社長は「オール愛媛として取り組まれている人口減少対策に、当社としていささかなりともお役に立ちたい」と言っていました。私は耳を疑いました。四国電力は「伊方原発があれば町が活性化する」と言って伊方原発を建設しましたが、伊方町の人口は減少し続けています。さらに、伊方原発で事故が起きれば伊方町は居住困難

地区になり、三崎半島は人が住めない地区になるのです。本当にドノクチガイッテンダ！です。受け取った中村時広知事は「趣旨に賛同頂きました。お気持ちにつきましては、必ず良い成果に結び付けられるようしっかりと活用させていただきます」と。『お気持ちについての良い成果』とはいったい何でしょうか。まさか原発稼働の認可ではないでしょうか。

私たちは、私たちと私たちに続く生命が安易に安価に取引される原発依存社会に断固反対し、みなさんと心をひとつにして 9 月 1 日の一食断食を行います。

【鹿児島県】

関電前「一食断食」行動へのメッセージ

反原発・かごしまネット 代表/向原 祥隆

昨年 10 月 12 日、九州電力は遂に、原子力規制委員会に対して 40 年の設計寿命を迎える老朽原発、川内原発 1、2 号機の 20 年運転延長申請を行いました。規制委の結論もおおよそ 1 年という目途が示されているため、この 10 月には容認方針が出されるかもしれません。

私たちは、4 月 29 日、鹿児島市国際交流センターで、会場を埋め尽くす 200 人以上の参加で県民投票の会の設立総会を開催しました。6 月 1 日にスタートした署名運動は、連日のマスコミ報道もあり、全県民の注目を集めました。署名期間 2 カ月、7 月 30 日までに集められた署名は、全県下で 50,290 筆と、法定数のおよそ 2 倍にのぼりました。

今後舞台は 9 月末の県議会に移ります。なんとしても県民投票の実現にこぎつけ、県民の意思で川内原発の 20 年延長問題に決着をつけたいと考えます。

もともと原発は、地方に危険を押し付け、都市部の電力需要にこたえるという差別的な発電装置です。自らが方針を決めたらあとはどうにでもなると、電力や国の地方の住民を見下し、軽んじる態度が背景にあります。

鹿児島に暮らす住民の誇りをもって、川内原発 1、2 号機廃炉の日まで闘い続けます。

関電前に結集された皆様と思いは同じです。遠い南の地から、深い連帯のエールを送ります。

● メッセージをお寄せいただいた団体・個人 一覧

【北海道】北海道 後志（しりべし）・原発とエネルギーを考える会／佐藤 英行	2
【青森県】核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会 事務局長／中道 雅史	2
【宮城県】みやぎ脱原発・風の会／舘脇 章宏	3
【福島県】原発いらね！ふくしまの女と仲間たち／黒田 節子	3
【茨城県】茨城県東海村議会議員／阿部 功志	4
【東京都】たんぼぼ舎／柳田 真	4
【東京都】再稼働阻止全国ネットワーク／木村 雅英	5
【新潟県】柏崎刈羽原発絶対反対地元有志代表／近藤 容人、高田 勝弘	6
【愛知県】老朽原発40年廃炉訴訟市民の会／草地 妙子	6
【岐阜県】さよなら原発・ぎふ	7
【石川県】志賀原発を廃炉に！訴訟原告団 団長／北野 進	7
【石川県】志賀原発再稼働阻止を闘う「命のネットワーク」／藤岡 彰浩	8
【福井県】ふるさとを守る高浜・おおいの会／東山 幸弘	9
【福井県】おおい町／宮崎 慈空	9
【福井県】若狭町／石地 優	10
【滋賀県】滋賀県高島市議会議員／是永 宙	11
【京都府】福知山地方労働組合協議会 議長／奥井 正美	11
【京都府】原発ゼロをめざす宮津・与謝ネットワーク 代表／津島 英一	12
【島根県】さよなら島根原発ネットワーク／芦原 康江	12
【山口県】上関の自然を守る会 共同代表／高島 美登里	13
【愛媛県】伊方から原発をなくす会／秦 左子	13
【鹿児島県】反原発・かごしまネット 代表／向原 祥隆	14

● 9.1 関電前「一食断食」行動 集会宣言（案）

今日、9月1日は、関東大震災の悲劇から100年目です。「天災は忘れたところにやってくる」と言います。明日にも、原発立地を大震災が襲う可能性があります。一方、「人災は騙されたときにやってくる」は井戸謙一弁護士の名言です。今、政府や電力会社は、人々を騙して「原発依存社会」へ暴走しています。

本日、関電前に結集した私たちは、一食を我慢して、少しひもじい思いをしながら、原発利用の理不尽、福島原発事故の悲惨さ、原発事故被災者の苦難、子々孫々に負の遺産・使用済み核燃料、核廃棄物を残すことの罪深さ、朝鮮人大虐殺を起こした100年前の政治と現在政治の類似性、などなどに思いをいたし、岸田政権による「原発依存社会への暴走」「放射能汚染水の海洋放出強行」、関電による「老朽原発再稼働」「使用済み核燃料に関わる詭弁と欺瞞」に抗議しました。また、苦悩のなかにも熱い闘いを続ける全国の原発立地や核施設立地から寄せられたメッセージに耳を傾け、「原発はあってはならない！即時全廃！」「原発依存社会に向かって暴走する政府や電力会社は不要！」の決意を新たにしました。

ところで、関電は、原発トラブル、贈収賄、カルテルの締結、個人情報不正閲覧、様々な法令違反などの不祥事を頻発させ、約束違反を繰り返しています。こんな関電に原発をうごかす資格はありません。

関電はいま、使用済み核燃料の中間貯蔵地探しで窮地に立っています。「本年末までに、中間貯蔵地が福井県外に見つからなければ、老朽原発を停止する」とした期限が目前です。老朽原発を廃炉にできるかどうかの正念場です。関電は「使用済み燃料の一部（わずか5%）を、フランスに搬出するから約束は果たした」としています。詭弁です。一方、中国電力と結託して、唐突に、山口県上関町に中間貯蔵候補地としての調査を申し入れました。しかし、この場所は、希少な生態系を守るために、長年にわたって原発建設反対を闘い、工事を阻止してきたところです。今回の申し入れは、住民の間の分断をさらに助長するものです。関電の地元・関西、若狭と上関の連帯によって、全国に闘いの炎を燃え上がらせましょう！

岸田政権は、原発の60年超え運転まで可能と

しました。時代遅れで斜陽産業となっている「原発ムラ」に税金をばらまこうとしています。総事業費14兆5千億円の六ヶ所村の核燃料再処理工場は操業開始の延期を繰り返しています。60年以上も莫大な予算を投下し続けたにも拘わらず、実用の兆しも見えない、高速炉、高温ガス炉、核融合炉にさらに膨大な予算を投下しようとしています。

しかし、岸田首相や関電がどう願望し、法律をどう変えようとも、経済的利益や政治的思惑で原発の老朽化を防ぐ技術、安全性を高める技術、使用済み核燃料の処理・処分技術が急に向上することはありません。荒唐無稽な原子力にばらまく税金と人員は、風力、太陽光、地熱、水力などの自然エネルギーの利用と蓄電技術の開発に回すべきです。

コロナ禍で多くの市民運動が後退を余儀なくされるなか、私たちは、猛暑、豪雨、雪にもめげず、政府、関電、原発推進自治体に抗議の声を上げ続け、若狭一円でチラシ配布を繰り返しました。関電本店、高浜原発、大飯原発、美浜原発の前で、重ねて再稼働反対の声を上げ、福井県議会、原発立地自治体議会への傍聴、申し入れ行動に起ちました。関西一円の自治体への要請行動も行いました。関西と若狭を結んだリレーデモも行いました。

その私たちには、コロナ禍による制約が緩和されたいま、岸田政権や関電を追い詰めるための運動の、質・量両面からの拡大が問われています。

ドイツ、イタリア、台湾は脱原発を実現しました。原発全廃をたたかう全国、全世界の人々と連帯し、原発推進勢力への反転攻勢に踏み出しましょう。

- 9月15日に画策されている老朽原発・高浜2号機の再稼働を許さず、現地行動に起ちましょう！
- 10月22日「使用済み核燃料の行き場はないぞ！全国集会」に結集し、使用済み核燃料の発生源・原発の全廃を求めましょう！
- 12月3日「とめよう！ 原発依存社会への暴走1万人集会」を全員の努力で成功させましょう！

以上、宣言します。

2023年9月1日

『老朽原発うごかすな！ 止めよう！ 原発依存社会への暴走 関電前「一食断食」行動』
参加者一同